

第108回全国高校野球選手権青森大会



公式練習に臨む八学光星ナイン

甲子園懸けベスト8 激突

三沢商、光星、工大一 弘前で公式練習に汗

きょうから準々決勝

第108回全国高校野球選手権青森大会は17、18日に弘前はるか夢球場で準々決勝計4試合を行う。県内各地区を代表する強豪8チームが顔をそろえ、阪神甲子園球場で行われる全国選手権(8月5日開幕)への出場権を懸けた戦いは、佳境に入る。

準々決勝へ駒を進めたのはセンバツ8強の八学光星、春季県王者の青森山田、昨年覇者の弘学聖愛、昨秋県準Vの工大一、春県4強の下山学園と弘前東、春8強の三沢商、昨夏4強の青森北。

17日の第1試合は、青森山田―三沢商。高い総合力を誇る青森山田が優位か。ここまで2試合連続ゴールド勝ちを収めるなど、貫禄十分の戦いを見せている。三沢商は3回戦で八戸西を下した粘り強さで、番狂わせを狙う。

第2試合は、青森北―八学光星。昨夏の準決勝カード。八学光星は、3回戦でエース北口晃大が青森商を無閃球完封と圧巻の投球内容。打線は今年も強力で、ビッグイニングをつくる力がある。青森北は好機を確実に生かし、得点につなげたいところだ。

18日の第1試合は、下山学園―弘学聖愛。ノースードからの2連覇を狙う弘学聖愛は、打線が好調で1回戦から全て大勝。特に終盤の攻撃は破壊力抜群で、相手にとっては大きな脅威となる。下山学園は、投打の中心となる関貴城の出来が鍵を握る。春の勢いをそのままに大物食いを狙う。

第2試合は、工大一―弘前東。2回戦を集中打で突破した工大一は、3回戦では小技を駆使した巧みな試合運びで勝利した。投手陣は安定感がある。弘前東は打線が好調。自慢の長打力で相手をねじふせ、悲願の甲子園出場へ前進したい。

16日は、弘前はるか夢球場で8強入りした各チームが50分間の公式練習を行った。それぞれキャッチボールやシートノックで汗を流し、ベスト4進出へ向けて士気を高めた。八学光星の北口晃大主将は「まずは一戦必勝。自分たちのやってきたことを信じて、厳しい戦いを乗り越えて優勝する」ときっぱり。

工大一の小島琉生主将は「積極的に打ち、失点を抑えて良い形で戦えてきた。自分たちのペースでプレーできれば勝てるはず」と自信を見せた。

三沢商の月龍翔太郎主将は「強豪の青森山田と戦えるうれしさもある。押し切れないよう、全員で攻めて勝ちにいく」と意気込んだ。準々決勝後の19日は調整日で、20日に準決勝2試合を予定。決勝は22日に実施する。

(小嶋嘉文、中山瑞希)

きょうの試合

▽準々決勝

【弘前はるか夢】

青森山田―三沢商 10:00
青森北―八学光星 12:30